

事業所職員向け

児童発達支援 自己評価表

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		適切に保てるよう、使用目的に応じて、お子様が集中しやすい環境設定を心掛けています。
	2 職員の配置数は適切であるか	○		基本定員いっぱいでのご利用を頂いており、その中で質の高い療育の提供を目指し、基準を上回る体制を整えてトレーニングを実施しております。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		お子様の特性を踏まえ、時間や空間がわかりやすい構造化した環境づくりに努めています。またその環境を活かし、活動への集中と安心を促すことができるよう、座席位置への配慮等一人ひとりに併せた支援につなげています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		基本的な清掃は毎日実施をし、社内基準に定められた清潔空間を保つようにしています。また、冷温の飲み物をご用意し、保護者が心地よく過ごせるようにさせて頂いております。室内のレイアウトや装飾面においても、子どもや保護者が心地よく過ごせる工夫をしています。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		運営規定及び運営方針を念頭に、全職員が積極的に運営改善に関わり、保護者様の意見も取り入れ、PDCAサイクルにより、業務改善・品質向上に努めています。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		保護者アンケートを通して、保護者の移行や満足度の把握に努めています。また、頂いた意見への返答と改善を行っており、改善が出来た際には次回のアンケートで保護者に報告させていただく予定です。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		今年度よりハッピーテラスのHPにて公開しております。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○	第三者による外部評価は行っておりませんが、今後積極的に取り組んでいく方針です。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		本社が実施する研修の他、月1回の事業所内研修の充実にも努めております。外部研修にも積極的に参加し、知識・技術の向上につなげております。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		子ども本人の発達等の状況や家族・地域社会の状況のみならず、子どもや保護者の意向を適切に把握することで、個別に合わせた計画の作成に努めています。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		現在ハッピーテラスでは、明星大学準教授 竹内先生に監修頂いたアセスメントツールなどを利用して、来所されている子どもたちの適応行動の状況を図っています。当事業所でもこれを参考にアセスメントを行っています。これにより支援経過の変化がわかりやすく示すことが出来るようになっていきます。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		児童発達支援計画は保護者へのアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を職員全員で客観的に分析した上で、子どもが家庭や地域社会における生活を通じて、様々な体験を積み重ねられるよう考慮しています。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		子どもたちへのより質の高い効果的な支援の実施につながるよう、児童発達支援計画に基づくトレーニングを行っています。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		利用予約状況から、その日に利用する子どもの児童発達支援計画に基づく支援経過状況や課題等を考慮し、個別の担当や集団メインスタッフがプログラムを考案し、それをもとにチームで検討を行っています。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		活動の中での経験が限られてしまうことがないよう、年齢や来所される子どもたちに合わせたプログラムの提供を行っています。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○		子どもの発達の状態及び 発達の過程・特性等並びに保護者の意向等を踏まえ、個別活動と集団活動での取り組みを適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成しています。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		支援に関わる全職員にてトレーニングの内容や子どもの様子を共有し、共通理解と共通認識のもと、チームで支援効果を高めることができるよう努めています。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		支援に関わる全職員にて振り返りを実施し、多角的に気づきを共有し、次回からの支援につなげています。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		児童発達支援計画に基づく支援に対する記録を基本に、前回利用時との比較や、その日の状況等を毎回詳細に記録しています。また、記録は児童支援発達計画の検証にも使用し、月ごとの評価にも活かしているほか、振り返りとしてまとめて保護者にお渡ししています。
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		定期的なモニタリングに併せ、上記の支援記録の評価を根拠に、全指導員、児童発達支援管理責任者で話し合いながら児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しています。

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○	サービス担当者会議が開催される際には、児童発達支援管理責任者、もしくは授業担当職員等を中心に、サービス担当者会議に参加します。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○	サービス利用に至った段階から継続的な支援を行うため、母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援ができる体制整備が整うように取り組みを行っています。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○	現在対象となる児童がいらないため現状では連携を図っている児童はおりませんが、医療機関との連絡体制は整えております。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○	対象となる児童がいらないため現状では連携を図っている児童はおりませんが、医療機関との連絡体制は整えております。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○	子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、幼稚園や保育園から要望があった際に、療育の様子を見ていただくなど、その都度対応しております。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○	会議等は行っておりませんが、保護者からの依頼があった際に、書面として情報をまとめております。子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害の特性、支援内容等の情報共有を図り、円滑に引き継がれるよう努めていきます。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○	通所している子どもに関しては、必要に応じて相談や訪問での情報共有等を行っております。今後、研修への積極的な参加を含め、各専門機関との連携強化に努めていく方針です
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	○	ほとんどの児童が保育園、幼稚園に通っているため、療育の時間内に障害のない子どもと触れ合う時間は設けておりません。今後要望があれば検討していきます。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○	右京区で行われる児童部会などの会議に積極的参加しています。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○	毎回のトレーニングは保護者にも見て頂いている為、状況を話す機会は多いです。日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持つよう努めています。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っているか	○	ペアレントトレーニングは行っていないですが、今後、要望があれば検討していきます。毎回、療育の最後に保護者様と振り返りをさせていただいており、その際に、お子様への声掛けやかかわりについての助言は行っております。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○	ご契約を頂いた際に、子どもや保護者が児童発達支援を適切かつ円滑に利用できるよう、丁寧に説明をするよう努めています。疑問点があれば対応職員の方ですぐに対応できるようにもしております。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○	児童発達支援計画の内容は児童発達支援ガイドラインに即した内容ですが、保護者に対する説明では、児童発達支援ガイドラインを示しての説明は実施しておりませんでした。再度職員への児童発達支援ガイドラインの内容の周知を行い、今後実践していきます。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○	保護者が悩み等を自分だけで抱え込まないよう適宜相談に応じ、信頼関係の構築に努めています。また、同じ職員が継続して子どもたちを見ていくことで、相談を受けた際に必要に応じた助言が出来るのが強みだと思います。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○	お子様の年齢が低いことやトレーニングの時間割等もあり、なかなか実施できていないのが実際の所です。ですが、集団や個別のトレーニング前などの時間に保護者同士でお話されている様子も見られます。今後時間の調整などを行い、保護者会の開催など、保護者同士の連携がとれる機会を検討していきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	子どもや保護者が悩みや不安等を一人で抱え込まないように、子どもや保護者からの相談には適切に応じ、信頼関係を築くよう努めています。その上で、必要に専門的な助言を行える体制を整えております。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○	イベントのお知らせや連絡事項等については、その都度個別に書面でお知らせしています。また、活動内容についてはHP上に掲載しておりますが、十分な活用には至っていないため、再度情報配信ツールについてお知らせをするとともに、更新の頻度を増やし利用価値を高めていきます。
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○	職員等(ボランティアを含む。以下同じ。)であった者が、その業務上知り得た秘密を漏らすことがないよう、誓約書の提出や雇用契約に明記するなどの措置を講じています。書類等も鍵付きキャビネットにしまし、PCにもパスワードを掛ける等の対策もしております。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	必要に応じて実施しています。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○	今現在、事業所としてイベントを行っておりません。今後イベントや勉強会などを行う際には、地域の方にもお知らせをし、参加していただけるよう努めていきます。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		各種マニュアルの作成の策定並びに研修・訓練を随時実施しています。今後必要に応じて、時期的な感染症などについての対応マニュアルなど、教室内に掲示して周知を図っていきます。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか		○	現在行っておりませんが、今後取り組んでいきます。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		必要に応じて実施しています。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		○	現在、食事提供はしていないため指示書はいただいております。アレルギーの有無等については全員確認しています。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		ヒヤリハット報告書作成時には、即座に職員及び全社に共有を図っています。また年度ごとにまとめ・分析し、事例集として活用しています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		職員一人ひとりが虐待防止チェックリストを実施し、それをもとに教室としての評価・改善等に取り組んでいます。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○		社内で組織的に決定をし、その旨を子どもや保護者に説明をし、個別支援計画に記載することとしています。